

釜山線（週7便）による本県への経済効果について

○釜山線（週7便）による経済効果：年間41.93億円

釜山線利用者の消費による経済波及効果は38.45億円  
 直行便を利用することで県民が得られる便益効果は3.48億円

経済効果 (経済波及効果+便益効果)	経済波及効果	経済波及効果		便益効果
		直接効果	間接効果	
41.93億円	38.45億円	25.06億円	13.39億円	3.48億円

(算出条件)

- ・週7便、座席数220席、搭乗率80%、利用者数6.4万人/年
- ・インバウンド利用者、アウトバウンド利用者の比率は9：1

【参考】他路線による経済効果

	経済効果 (経済波及効果+便益効果)	経済波及効果	直接効果	間接効果	便益効果
ソウル線 (週14便)	76.10億円	53.67億円	35.03億円	18.64億円	22.43億円
台北線 (週3便)	17.79億円	15.01億円	9.79億円	5.22億円	2.78億円

**3路線合計：135.82億円** (経済波及効果：107.13億円、便益効果：28.69億円)

経済波及効果

松山空港国際線を利用して来県した外国人利用者が県内で消費した金額（宿泊費や飲食費、土産代など）のほか、松山空港国際線を利用する県民が県内で渡航前後に消費する額（＝直接効果）に加え、県内の各産業にもたらされる収益の増加分が新たな消費に向けられる額（＝間接効果）を合計したものの。

便益効果

他県の空港を利用した場合と松山空港を利用した場合を比較し、松山空港に国際線が就航していることで県民が削減できる交通費と時間短縮効果を所得機会として評価した額を合計したものの。